

～平成 22 年 10 月 30 日実施～

藤井寺市の医療と介護はチームアプローチで！

いけ！ネット交流会

報告資料



平成 23 年 1 月

藤井寺市 いけ！ネット

◆ 目 次 ◆

■はじめに	1
■概要	2
■開会	4
■活動報告	5
■グループディスカッション・懇親会	6
■交流会時アンケート集計報告	7
■参考資料	13
①アンケート調査報告〔交流会時配布資料〕	14
②交流会チラシ	30
■いけ！ネットメンバー	31

■はじめに

交流会当日は、66名の介護・医療従事者の方や関係者の方が、お忙しい中お越しいただきましたことにまず感謝申し上げます。

機械トラブルもありご迷惑をお掛けしたところも多々あったかと思いますが、最後まで無事やり遂げたのは、参加者の皆さんと「いけ！ネット」メンバーが一体と成って交流会を盛り上げた成果だと実感しております。

今回「いけ！ネット」ではアンケートを実施しました。アンケート回収率にはやや物足りなさを感じましたが、その結果は「一歩ずつ着実に連携は推進されている」と断言できるものとなりました。これは、「いけ！ネット」の活動がその結果を導いたというよりも、医療職と介護職の皆さんが日常業務において、患者（利用者）さんのために、双方の連携の意識が高くなり行動に移された結果だと思っています。

しかしながら一方、アンケートにもありましたとおり、現場のひとりとして感じるところは、連携に対する意識が医療職と介護職問わず、差が開き始めているように思います。これは、個人の意識によるものなのか、事業者としてのスタンスなのか分かりませんが、いずれにせよその差はなくしていきたいものです。

今後は、そのような差を少しでも埋められる一助になれるよう、今回いただきましたアンケートで新たに得たご意見を、私たち「いけ！ネット」メンバーのエネルギーの源として活用して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「通称：いけ！ネット」

医療・ケアマネネットワーク連絡会

会 長 数 尾 展

■概要

《対象》

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会会員の居宅介護支援事業所
藤井寺市医師会会員
藤井寺市歯科医師会会員
藤井寺市薬剤師会会員
藤井寺市・羽曳野市内の医療ソーシャルワーカー
藤井寺市・羽曳野市内の訪問看護に従事している者
その他、いけ！ネット会長が認める者

《テーマ》

『藤井寺市の医療・介護はチームアプローチで』

《ねらい》

医療と介護連携の進捗状況を2～3年前と比較しながら共有する

《開催日時・場所》

開催日時：平成22年10月30日（土）午後2時～午後5時30分
開催場所：藤井寺市立福祉会館 講座室

《参加者数》

参加者総数	66名
【内訳】 医師	10名
歯科医師	4名
薬剤師	4名
介護支援専門員	21名
看護師（訪問看護師含）	12名
医療ソーシャルワーカー（MSW）	2名
行政職員	3名
地域包括支援センター	7名
その他	3名

《後援団体》

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会	藤井寺市医師会
藤井寺市歯科医師会	藤井寺市薬剤師会
大阪府藤井寺保健所	藤井寺市

《次第》

座長：「いけ！ネット」会長 数尾 展
司会：藤井寺市地域包括支援センター 前原 由幸

1. 開会の辞 司会者

2. 挨拶

＜主催者挨拶＞

医療・ケアマネネットワーク連絡会「いけ！ネット」 会長 数尾 展

＜来賓挨拶＞

藤井寺市 市長 國下 和男 様

藤井寺市医師会（医療職代表） 会長 白江 淳郎 様

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会 会長 阪口 利明 様

＜来賓紹介＞

藤井寺市歯科医師会 会長 兵埜 芳夫 様

藤井寺市薬剤師会 会長 加藤 雅弘 様

大阪市立大学院 教授 白井 みどり 様

3. 活動報告

〔事例検討チーム〕

藤井寺市訪問看護ステーション

居宅介護支援事業所

森 弘美（介護支援専門員）

〔啓発チーム〕

藤井寺市地域包括支援センター

田中 光子（介護支援専門員）

〔システム確立チーム〕

藤井寺市訪問看護ステーション

所長 吉田 久美（看護師）

4. グループディスカッション

5. 懇親会

6. その他 事務連絡

7. 閉会の辞

医療・ケアマネネットワーク連絡会「いけ！ネット」 副会長 木島 真也

■開会

今回の「いけ！ネット」交流会では、豊中市の行政職や医師、地域包括支援センター、堺市の介護支援専門員の参加もあり、今や府内から注目されている会？と言っては言い過ぎかもしれませんが、他市の状況なども新たにたくさん聞くことができました。



國下市長、白江医師会会長、阪口介護保険事業者連絡協議会会長、兵笠歯科医師会会長、加藤薬剤師会会長が来賓としてお越しいただきました。



駐車場整理から受付、配布資料などの作成もすべて多職種連携で行いました。



本業は医師か、司会者か！？
当日の名座長を務めたのは医師の数尾「いけ！ネット」会長



開会直前の様子。すでにガヤガヤと盛り上がっていました。

■活動報告

毎月1時間、多職種が集い、医療職と介護職の連携強化のため事例検討チーム・啓発チーム・システム確立チームの3つのチームに分かれ協議してきたことなどを報告しました。事例検討チームの報告では、小規模事例検討会の様子をスライドに流しながら実践報告を行い、啓発チームでは、自らが構想・企画し、そして市内の多職種やボランティアグループが出演したPRビデオの試写会を行いました。システム確立チームは、これまでに開発してきた“私の支援マップ”や“医療・介護連携シート”の使用頻度や連携状況などの調査報告（参照：P14）を行いました。



緊張が微塵も感じられなく堂々と報告する、事例検討チームとシステム確立チーム。



啓発チームは、構想2年、制作1年で作り上げたPRビデオを上映。機械トラブルあったのが少し残念でした。



機械トラブルも参加者のあたたかい包容力で乗り越えることができました。
～熱心に耳を傾ける参加者のみなさん～

■グループディスカッション・懇親会

今回のグループディスカッションでは、2～3年前と比較して「何が連携できていて、何が連携できていないのか」「より推進していくためには何が必要か」など振り返りの時間として企画設定しました。その振り返りの中から「明日から市民（患者・利用者）のために何ができるか」をもう一度考え、多職種が共有できた場となりました。



前半は、グループディスカッション、後半は席を自由に移動できる懇親会を予定していましたが、前半のグループディスカッションだけでは、話しが尽きず、どのグループも最後まで同じ席に付き熱心に、協議されていました。



有意義なひとときとなりました。

■交流会時アンケート報告

○参加者・・・66名 ○アンケート回答者・・・52名 ○回収率・・・78.8%

問1：あなたの主な所属をお聞かせ下さい。

①居宅介護支援事業所	13名	25%
②サービス提供事業所	3名	6%
③診療所	10名	19%
④病院	7名	13%
⑤行政	2名	4%
⑥薬局	2名	4%
⑦地域包括支援センター	10名	19%
⑧無回答	1名	2%
⑨その他	4名	8%
計	52名	100%

問2：あなたの主たる職種をお聞かせ下さい。

①介護支援専門員	18名	34%
②医師	8名	15%
③歯科医師	2名	4%
④薬剤師	2名	4%
⑤看護師	13名	25%
⑥保健師	3名	6%
⑦MSW	1名	2%
⑧社会福祉士	1名	2%
⑨無回答	1名	2%
⑩その他	3名	6%
計	52名	100%

問3：地域医療・福祉・介護・保健に関わる仕事をした経験年数をお聞かせ下さい。

①0～5年	13名	25%
②6年～10年	12名	23%
③11年～15年	9名	17%
④16年以上	6名	12%
⑥無回答	12名	23%
計	52名	100%

問4：「事例検討チーム」の報告について

①参考になった	38名	73%
②参考にならない	1名	2%
③分からない	6名	12%
④無回答	7名	13%
計	52名	100%

◆自由記入

○報告内容についてのご意見

- ・参加してみたいと思った。幅広い知識を吸収する機会。【ケアマネ】
- ・どの様な事を実際にされているか知ることができました。【看護師】
- ・会の目的が明確であり、参加されている方たちの意識の高さも伝わってきます。【ケアマネ】
- ・内容をもう少し知らせてもらえると分かり易かった。問題点や今後の課題についても知りたかった。
【看護師】
- ・テーマ、目的は文章化されているのでよいが、どんな話がでたか、意見や具体例が特にないので、こんな事例検討をしているんだなで終わっています。【ケアマネ】
- ・毎回きっちり目的を明確にしながら行っている点で、結果を出して行く事の大切さを理解した気がします。【看護師】

○事例検討会についてのご意見

- ・疑問と思う事をテーマにして検討するのは、役に立つと思われる。【歯科医】
- ・病院外での情報を知る事ができて良いと思う。【看護師】
- ・1時間ほどの時間で介護をテーマに意見交換が出来る事はよいと思います。【医師】
- ・他職種と普段じっくり話ができる機会は少ないので、様々な職種との意見交換ができていて嬉しい。
【ケアマネ】
- ・今後もっと様々なケースについての検討会をしてほしい。【ケアマネ】
- ・事例検討会は、どのような事例であっても勉強になります。事例から得るものだけでなく他職種、他事業の方々との交流や意見交換が新鮮で今後の連携につながると思います。【ケアマネ】
- ・各テーマに添った専門職の意見交換ができる場がある事で今後のプラン作成や本人、家族へのアプローチ方法に自信が持てる。【ケアマネ】

問5：「事例検討チーム」について 今後どのようなテーマや企画を希望されますか *自由記入欄のみ

◆自由記入

○こんなテーマで実施してほしい

- ・頑なに介護を拒む老人へのアプローチ方法【医師】
- ・ターミナルにおける支援方法（ホスピスとケアマネジメント）【ケアマネ】【看護師】
- ・民生委員や地域のボランティアが関わっている事例【保健師】
- ・“こんなケースでこう対応した” “うまくいった” “うまくいかなかった” 事を知りたい。【ケアマネ】
- ・介護の重い方、高齢者夫婦でやっとバランスのとれている生活をしている方の事例【医師】
- ・緊急搬送した時の事例【ケアマネ】
- ・ひとり暮らしの方で、家族支援が受けにくいケース【看護師】

- ・それぞれ困った内容を持ち寄る。又はe-カンファレンスがあれば有効。【医師】

○参加しやすい時間帯は・・・

- ・午後1時～午後4時。
- ・土曜の午後。
- ・平日なら午後2時～4時。
- ・夕方が良いです。18時以降が良いです。
- ・土曜の2時以降が参加しやすい。
- ・平日の月半ば。
- ・午後2時～午後4時。
- ・出来れば土曜日に開催してほしい。
- ・休日だと助かります。

問6：「啓発チーム」の報告について *PRビデオ視聴

①とても参考になった	28名	54%
②参考になった	23名	44%
③あまり参考にならなかった	0名	0%
④無回答	1名	2%
計	52名	100%

◆自由記入

○報告内容についてのご意見

- ・市民は知らない事がもっとあると思います。もっと情報提供ができるよう頑張ってください。

【看護師】

- ・ビデオ作成大変だと思います。内容的にさらに色々な事例を取り入れると市民の方の参考になると思います。【看護師】

- ・退院前に関係スタッフとカンファレンスが大切な事を日頃から感じています。退院後の生活状況がやはり地域にいる方でないと分からない事が多いからです。【看護師】

- ・ビデオ撮影からの取り組みを関係機関に関らず市民に対して行っていくことの重要性を感じる。

【ケアマネ】

- ・市民の方々にも参加していただくという点において“目からうろこ”という感じ。私たちが多職種間で話し合いを持った時、ついつい利用者を見落としがちになることを改めて考えさせられました。

【看護師】

○PRビデオについてのご意見

- ・地域高齢者に、よりわかりやすくとの思いで作られたビデオでとても良かったと思います。対比されておりしっかり連携を取れば、安心して在宅で過ごせるとの希望がもてると感じると思います。

【ケアマネ】

- ・連携のうまくいっていない場面は、少し物足りない。もう少し強調して欲しかった。【医師】

- ・市民の方に見ていただくので、くどくどするより分かり易く良かったと思います。【ケアマネ】

- ・展開が早かったので少し分かりにくかった。【ケアマネ】

- ・ビデオの中で連携スタッフの役割が少し不足している様に感じました。スタッフの役割とは何かを地

域の方に知ってもらえればと考えます。【看護師】

- ・市民公開講座を行うのが良いと思いました。【医師】
- ・市民に向けて「医療・介護はつながっている事が安心になるんやな」という考えを持ってもらう為のメッセージとしては具体例があって分かり易かったが、本当に入り口の部分であるので知りたいのはここから先ですね。【ケアマネ】
- ・楽しいビデオでした。出演者の皆さんの演技はとてもお上手でした。“連携ができていない場面”がやや分かりにくかったです。もっと困ったように作製していただければいかがでしょうか？【ケアマネ】
- ・VTRは良い手段だが事例毎にもう少しどんな支援をどんな職種が役立つか詳しく説明があれば良かったかと思います。【医師】
- ・医療職と介護職の連携がいかに大切であるかを再認識しました。ビデオ上映により分かりやすく良かったと思います。【薬剤師】
- ・市民の方が分かり易いと思った。高齢者の方が多く集まるところに流してほしい。【ケアマネ】

問7：「システム確立チーム」のアンケート集計報告について

①参考になった	51名	98%
②参考にならない	1名	2%
③分からない	0名	0%
④無回答	0名	0%
計	52名	100%

◆自由記入

○「連携シート」や「支援マップ」についてのご意見

- ・連携シートを活用する為にも、患者さんの家に支援マップが貼っていれば、活用し易いが、どのようにして支援マップに記入されるのか知りたい。【歯科医】
- ・病院で支援マップを見せてもらい“なるほど”と感じました。患者の介護保険、連絡先などすぐに分かり忙しい業務の中でも正確な情報が取れすぐにも対応もできる良いシステムだと思います。【看護師】
- ・マップがあることはよく把握しているが使用頻度がまだ少ないので、改めて活用していきたい。どうしても医師が忙しく会って話すということは困難なケースや病状悪化している事例に限られている。
【ケアマネ】
- ・連携シートは医師⇄ケアマネ間だけではなく、もっと他職種間でも使用できるように改良してもらいたい。支援マップについても患者宅だけではなく関わる医療、介護サービス機関にも提供してもらいたい。【看護師】

○アンケート結果についてのご意見

- ・結果がどうであれ、現状把握する資料としては参考になった。この結果を踏まえ、医療・ケアマネ・介護とのさらなる密な関係構築の為にこのような会は、必要であると感じている。【ケアマネ】
- ・アンケートの結果にあるように3年前より医師、ケアマネの連携は深まっていると思います。当院でもほぼ必要であると思われる患者については、連携シートはほぼ100%送られてきているし、返信もしています。【医師】
- ・もう一段掘り下げれば、(例 医師がなぜ参加しないのか。薬剤師の関わりがなぜないのか。)より連携が強化できるのではと思います。【医師】

- ・いけ！ネットの目的である連携の状況がよくわかりました。アンケートで見えてきた問題点を今後どうしていくかが、いけ！ネットの進歩にもなると考えます。【看護師】
- ・アンケート結果と、自身が持つ他職種との連携状況とが、ほぼイメージに近かった。歯科医師や薬剤師に関しては連携をとる事で何が知れるのか。明確な役割分担ができていないから連携をとろうとしていないのではないかと思う。【職種無記入】
- ・職種による認識の差やシート等の活用状況の差が分かるアンケートであった。質問項目ごとに職種による比較ができると良いかと思えます。【看護師】
- ・それぞれの立場が求められているところが、アンケートより明確になり参考になった。【ケアマネ】
- ・ケアマネと他職種との連携の現状が具体的に分かった。【保健師】
- ・連携に向けて作成したシートが実際どの様に利用されているのかアンケート調査のまとめは大変だったと思います。結果が分かり易く参考にさせていただきます。【保健師】
- ・回収率が、そのままどれくらい熱意があるか比例していると思う。医師はもっと関心を持つべき。
【医師】
- ・まだまだ歯科医師とケアマネとの連携が充分ではないと思いました。【歯科医師】
- ・アンケートの自由記述欄にはとても示唆にとんだ内容があった。問題点で分析されている記述もあった。せっかく上がっている意見なので一つ一つ解決に向けて何らかの評価が必要ではないでしょうか。
【MSW】
- ・他の皆さんの連携への意識がよく見えた。報告の数値が良いのか悪いのか良く分かりませんが、どんどん良くなってきていると思います。【職種無記入】

問8：「グループディスカッション・懇親会」について

①とても参考になった	39名	75%
②参考になった	10名	19%
③あまり参考にならなかった	0名	0%
④無回答	3名	6%
計	52名	100%

◆自由記入

- ・各業種の思いや悩みが分かってよかった。顔と名前が分かるように努力します。【医師】
- ・ケアマネと歯科医師の連携について考えさせられる事が多かった。歯科医師も積極的に訪問在宅に関わるべきであると思います。【歯科医師】
- ・他職種の方や他市の方とザックバランに会話ができた事がとても良かったと思います。又、敷居が高く感じている先生とテーブルを一緒にする事で少し、身近に感じ良かったと思います。【医師】
- ・自由なテーマ設定で、普段では聞きづらい内容も聞けたので今後もこのような場を設けてもらえると嬉しいです。【ケアマネ】
- ・診療所の医師もケアマネのコネクションをどのように取り付けていけばよいのかと思っている事が分かりました。いけ！ネットの連携シートは良い方法だと思いました。【保健師】
- ・交流会は今後も続けて欲しい。医者にもっと出てきてほしい。【ケアマネ】
- ・医師の意見をこんなにたくさんお聞きする機会は今までにありませんでした。【職種無記入】
- ・顔を見て話しができ、おもしろかったです。【看護師】

- ・医師からの積極的な意見にもっとがんばらなくてはとやる気が出た。【社会福祉士】
- ・普段話すことの少ない開業医さんなどの意見や他市の方の意見が聞かれてよかったです。【看護師】
- ・医師からの発言が多く、藤井寺市内の医療を巻き込んでのネットワークができているのがすばらしいと思いました。連携シートの利用活用できそうですね。【看護師】
- ・市のメンバー勤務医の介護の仕組みに対する意識があるか？システムシート（入院⇄ケアマネ）是非作ってください。【医師】
- ・時間が短かった。歯科医師との連携について話しができてよかったです。【ケアマネ】
- ・それぞれの立場でないとわからない事があり大変参考になった。【医師】
- ・とても楽しく有意義な時間でした。具体的な支援方法の助言もいただきました。【ケアマネ】
- ・いろいろな業種の本音が聞けた。他市の関係者とも話しができて参考になりました。【ケアマネ】
- ・電話で話すことはあるが顔を合わせて話をする事ができてよかったです。貴重な意見を聞かせていただく事ができました。【看護師】
- ・いろいろな職種の方の話が聞けて大変参考になりました。顔を知ったのは大変良かったです。
【ケアマネ】
- ・多職種で話のできる機会をどんどん増やして欲しい。他市の方の意見も参考になる。数年前と比較してどう変わったかを話し合ったことは、とても意義あるテーマだったと思う。【MSW】
- ・他市の医師とケアマネの連携について話を聴く事ができて良かった。懇親会に関してはグループ別に分かれたままで移動できなく残念だった。【職種無記入】

問9：次回、このような勉強会を実施した場合、出席したいと思いますか

①はい	32名	62%
②いいえ	0名	0%
④無回答	20名	38%
計	52名	100%

■参考資料

1. アンケート報告〔交流会時報告資料（抜粋）〕
2. 交流会案内チラシ

1. アンケート報告〔交流会時報告資料（抜粋）〕

（目 的）

「いけ！ネット」が提案した“私の支援マップ”“連携シート”“関係者間の連携体制図”が藤井寺市を中心とする医療職・介護職がどの程度活用しているか、また各従事者の連携に対する実態を把握することで、今後の課題や対策を図ることを目的とした。

（対 象）

- ①藤井寺市介護保険事業者連絡協議会会員の介護支援専門員
- ②藤井寺市医師会会員
- ③藤井寺市内・羽曳野市内・八尾医真会病院に属するMSW
- ④藤井寺市歯科医師会会員
- ⑤藤井寺市薬剤師会会員

（実 施 期 間）

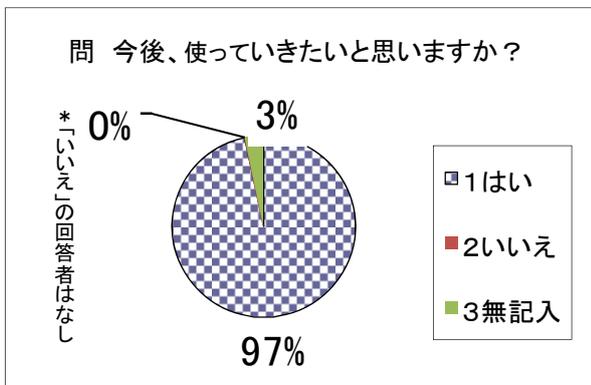
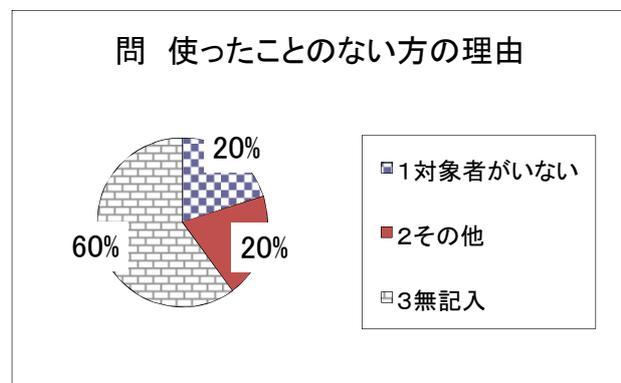
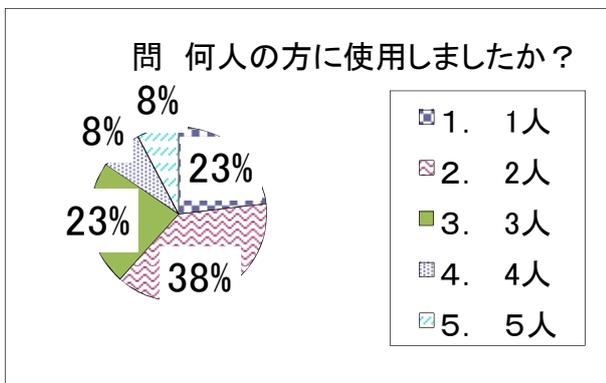
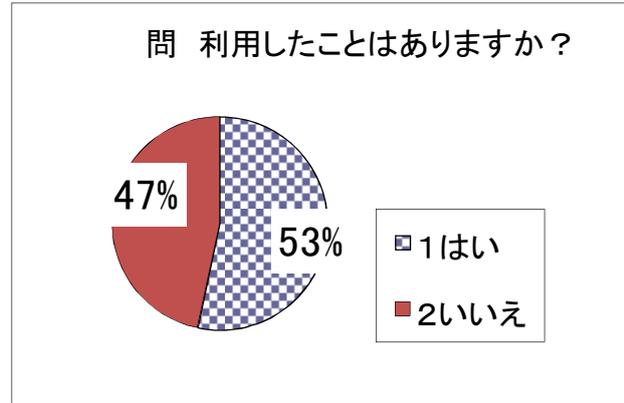
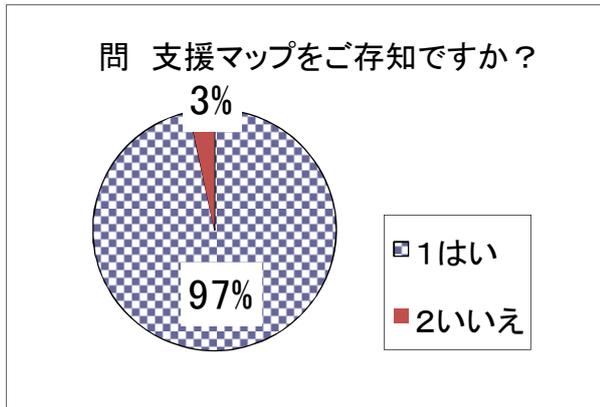
平成22年7月中旬 ～ 8月中旬

（対象数・回収数・回収率）

対象職種	対象数	回収数	回収率
介護支援専門員	47	30	63.8%
医師	109	36	33.0%
MSW	27	20	74.1%
歯科医師	43	26	60.4%
薬剤師	24	12	50.0%

1. ケアマネジャーに対するアンケート結果

<支援マップについて>



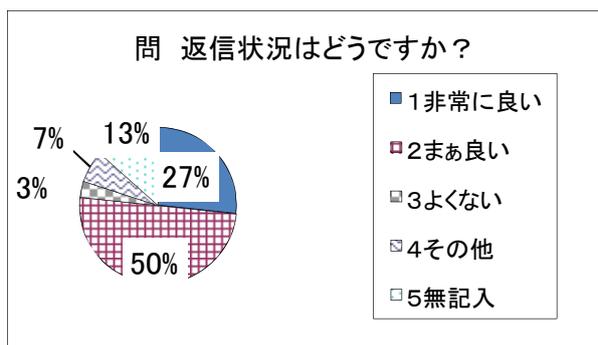
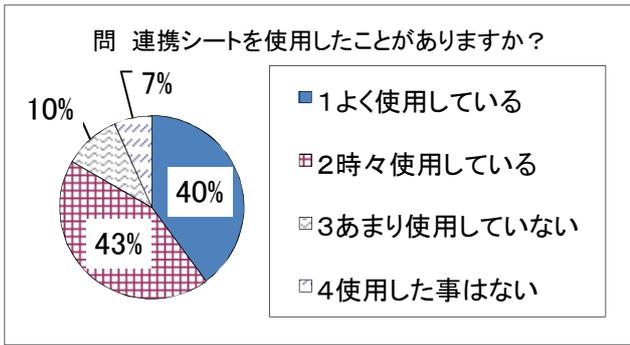
評価

支援マップについては、大半のケアマネジャーが「知っている」と回答。「使用したことがある」と回答した方は全体の半数を若干超えている。使用したことがあると回答した方の内、何人に利用したかという質問には、3名未満の方が80%を越える。「使ったことが無い」と回答された理由としては、「対象者がいない」「活用しようと思いつつも、まだ使えていない」などの回答が多くみられた。「今後、使っていきたい」という回答も、全体の97%に及び、活用の意向は高い。特に、認知症の方・独居・状態の不安定な方に役立つという意見が多く見られた。その一方で、まだ活用した件数が数件未満が大半であることから言えるように、まだまだ活用をし始めたばかりというのが現状である。

利用した人の感想

「電話の近くに貼ったり置いているため、わかりやすい」「喜ばれて電話横に貼られています」「うれしい」「別居してる子どもさんがどういう所が関わっているかわかり安心できる」など。その一方で、「認知症で本人には理解できていなかったようす」などの意見もある。

<連携シートについて>



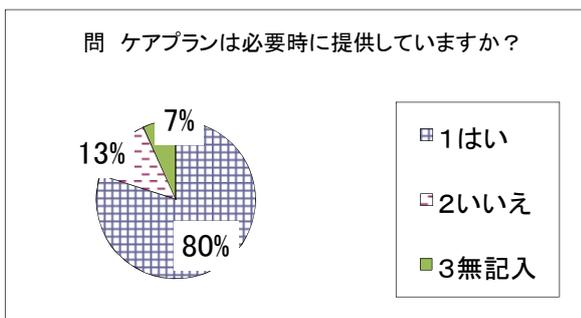
どんな時に使用していますか(重複可) %

初回担当ケアマネになった時	53
サービス利用時	53
身体状況を聞きたい時	50
担当者会議の開催時	23
歯科医師と連携時	0
薬剤師と連携時	0
MSWとの連携時	50
その他	20
無回答	10

評価

連携シートについて、「よく使用している」「時々使用している」と記入した人が8割を超えている。連携シートについては、「担当になったとき」「サービス利用時」に使用したことが多いという回答が一番多く、続いて、「身体状況を聞きたい時」「MSWとの連携時」が多かった。主治医にとの連携という面では、使用頻度が増えてきているが、歯科医師、薬剤師との連携時に活用したという回答はなく、まだまだ限定されている。

<ケアプランの主治医への提供について>

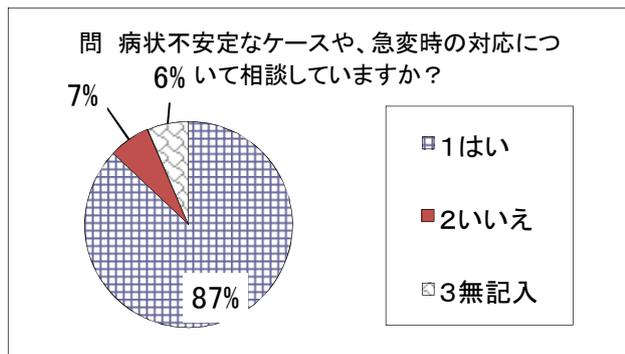
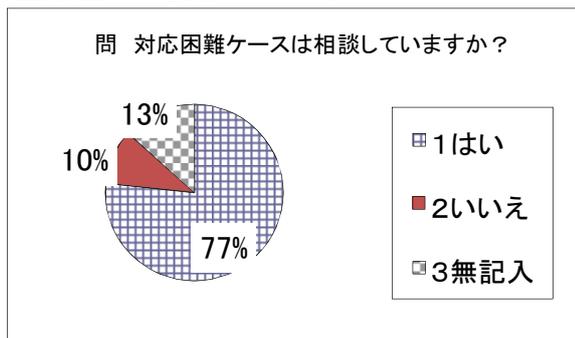


評価

8割の方が必要時に主治医にケアプランを交付していると回答。交付したことが無いと回答した方の理由としては、「求められていることもない為」「提供の依頼もない為」等

* H19年度のアンケートでは、14名がプランを提示していると回答。今回は24名が提示しており、連携への意識が高まっている結果である。

<主治医への相談について>

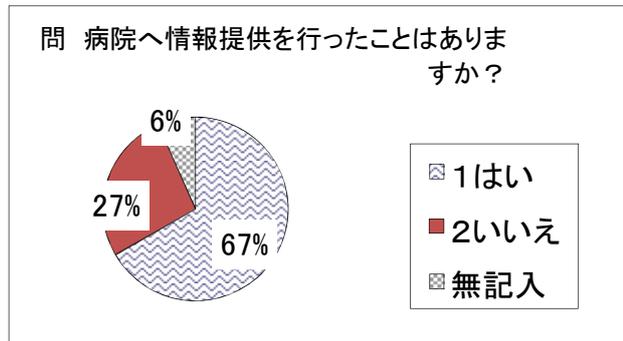
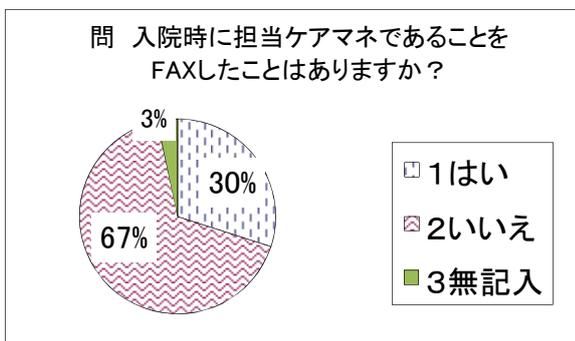


評価

対応困難なケースについては、8割弱のケアマネが「相談している」と回答。また、「病状不安定なケースや、急変時の対応についても、9割弱のケアマネが「相談している」と回答している。主な相談内容としては、「訪問看護やリハビリについて」「病状・服薬について」「サービス導入時の注意点」「サービスの受け入れの悪いとき」「身体状況の悪化時の対応方法」等相談したことが無いと回答した理由としては、「このようなことを聞いてもいいものかどうかためらってしまう」等が挙げられている。

* H19年度のアンケートでは、相談内容として、「医療系のサービス導入時、福祉用具のレンタル使用時」が80%を占めていたが、今回は利用者の病状を含め、色々な相談が増えてきており、連携に対して積極的になっていると考えられる。

<入院時の連携について>



○情報提供を行った際の状況

独居や、家族と連絡がつきにくい方に対しては、状況の説明をしたという回答が多い。その他、退院後の在宅生活が困難なケース、退院時に調整が必要なケース 等。

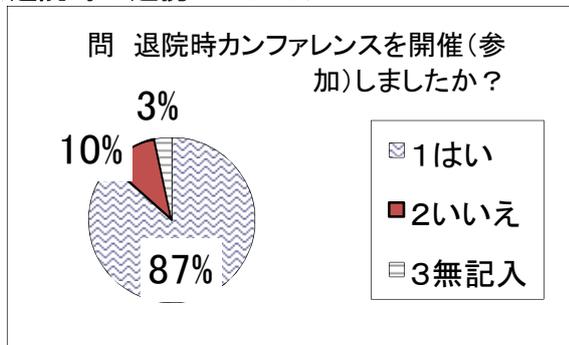
○行った情報提供の内容

「入院前のケアプランやサービス利用状況」「家族状況について」等。

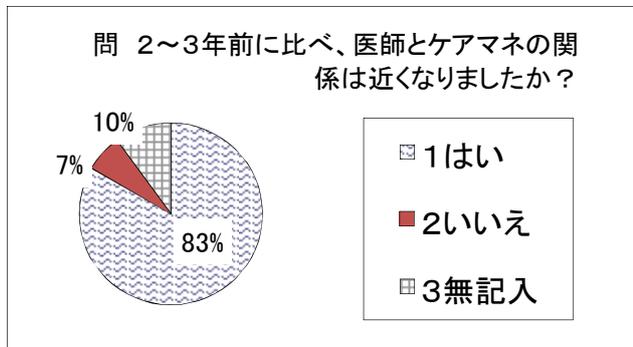
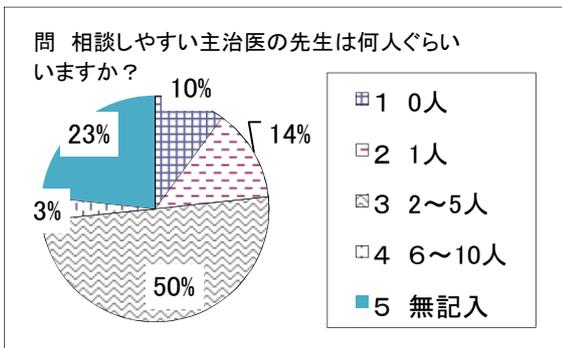
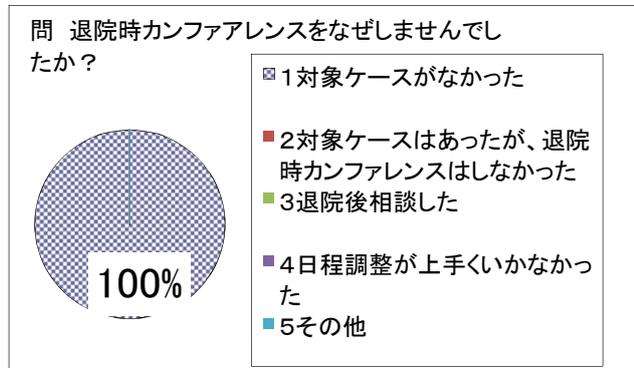
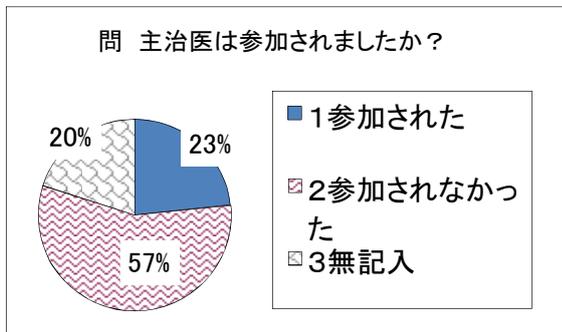
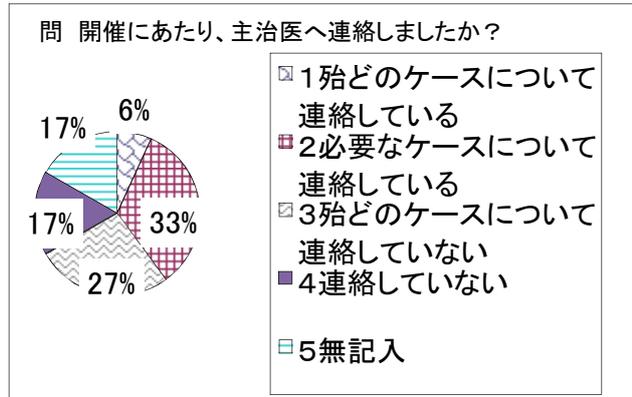
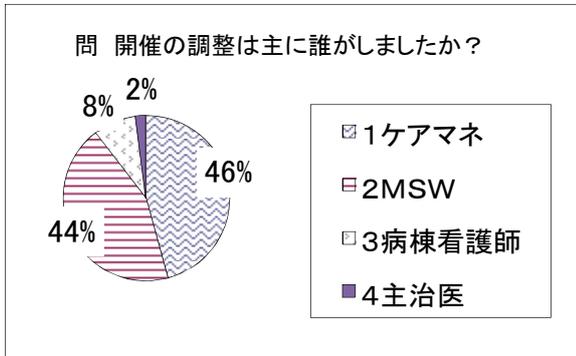
評価

入院時に担当ケアマネであることをFAXしたことがあるかという質問に対し、「はい」は30%にとどまった。一方で、67%のケアマネが病院への情報提供を行ったことはあると回答。また、FAXしたことが無い方の理由として、「電話している」「直接病院に行っている」という回答が一番多く、次いで、「家族がおり、必要なケースが無かった」という回答が多かった。方法はそれぞれ異なるが、必要時の連携はしているとの回答がほとんどであった。

<退院時の連携について>



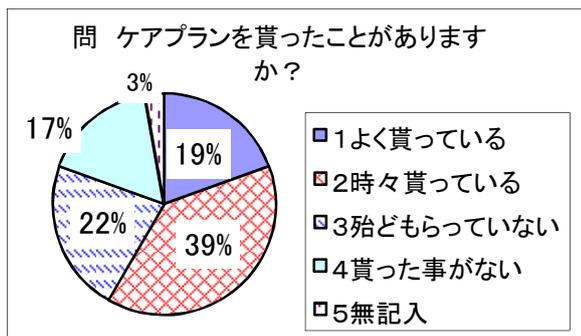
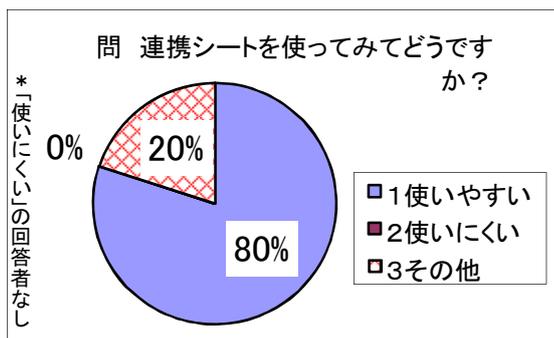
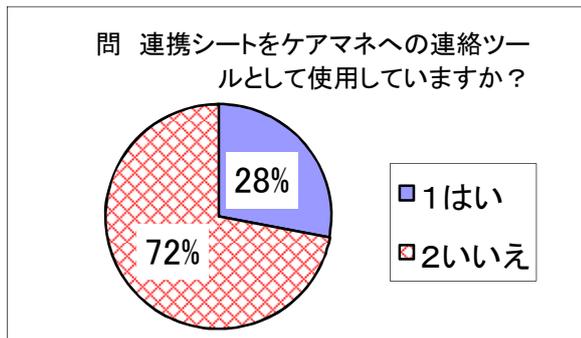
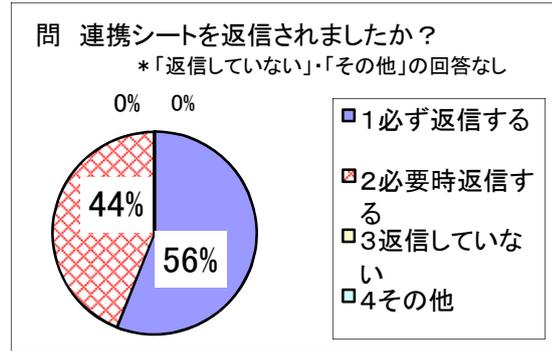
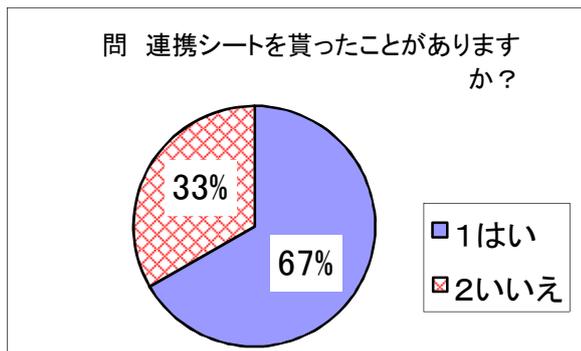
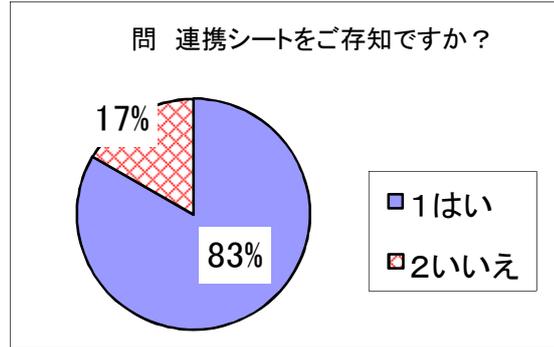
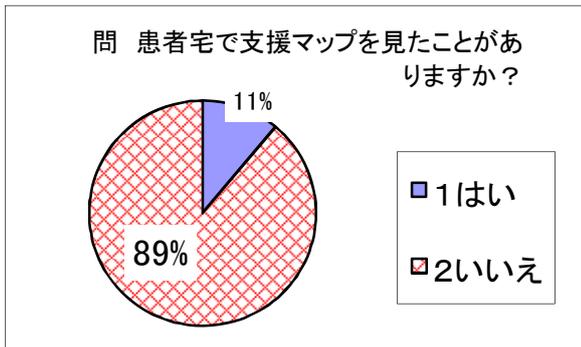
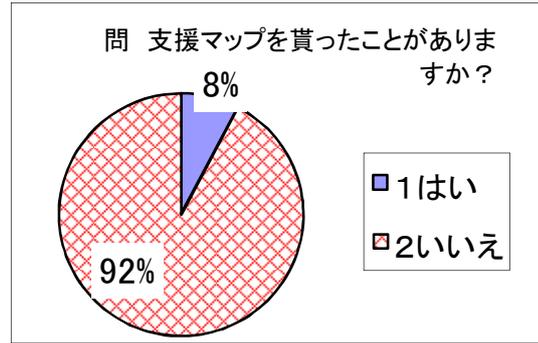
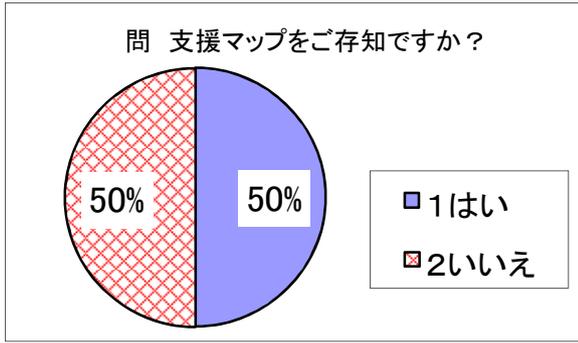
開催してどうでしたか	パーセント
1 本人や家族の協力や理解が得られた	63%
2 病状把握ができ支援が行いやすくなった	80%
3 関係者間の連携がスムーズとなった	73%
4 日程調整が難しかった	27%
5 必要性をなかなか理解してもらえなかった	3%
6 その他	0%
7 無記入	13%



評価

退院時カンファレンスについては、87%のケアマネが実施。開催の調整は、主にケアマネか、MSWが行っている。
 開催にあたり、毎回または必要に応じて主治医へ連絡したケアマネは39%。ほとんどのケースについて主治医に連絡していないと回答したケアマネが27%であり、まだまだ退院時のカンファレンスに主治医に声をかけていることは少ない。また、主治医が参加したケースも23%にとどまる。退院時にカンファレンスを行わなかった理由としては、「カンファレンスを行う必要な方がいなかった」がほとんどである。
 相談しやすい主治医の先生は「2~5人いる」と回答したケアマネが約半数おり、以前に比べて、「医師との関係が、以前よりも近くなった」と回答が全体の8割を超え、数年前より連携がとれるようになってきていると思われる。

2. 医師に対するアンケート結果



評価

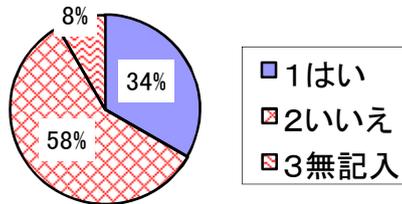
支援マップについては、約半数の医師が「知っている」と答えるも、「貰ったことがある」との返答は8%しかなく、まだまだ活用されていないのが現状といえる。「連携シート」については、83%の方が「知っている」と回答し、「貰ったことがある」との回答も67%あり、ある程度の周知は図れているものと思われる。「ケアマネへの連絡ツールとして使用していますか？」との質問に対しては、「いいえ」が72%。まだまだ活用頻度は少ないものの、使ったことのある方の80%が、「連携シートを使ってみて使いやすかった」と回答。今後、徐々に活用されていくことが期待される。ケアプランについては、半数強が貰った事があるとの回答であった。

* H19年度では、3割がもらった事があるとの回答であり、徐々に増えてはきている。

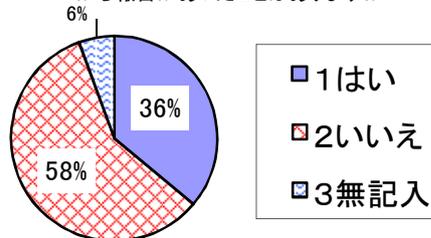
問 ケアマネから相談される事はどんな内容ですか？

	件数	パーセント
1医療系のサービス導入	16	44
2対応困難ケース	14	39
3認知症高齢者	5	14
4病状不安定なケースの対応	13	36
5急変時の対応	8	22
6その他	4	11
7無記入	4	11
計	36	

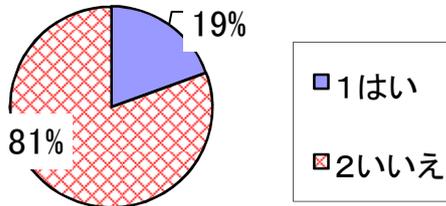
問 緊急入院が必要な場合等、ケアマネから相談はありましたか？



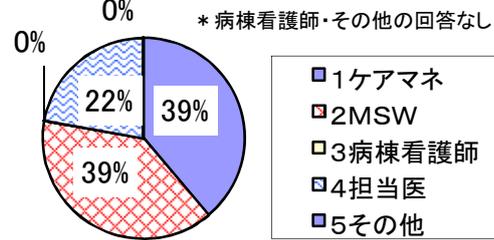
問 知らない間に入院しており、後日、ケアマネから報告があったことはありますか？



問 退院時カンファレンスに参加したことがありますか？



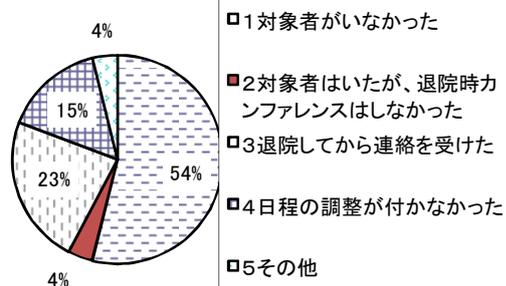
問 連絡は誰からありましたか？



退院時カンファレンスに参加してどうでしたか？

	件数	パーセント
本人や家族の協力や理解が得られた	4	27
状態把握ができ支援が行いやすくなった	4	27
関係者間の連携がスムーズとなった	4	27
日程調整が難しかった	3	20
その他	0	0
計	15	101

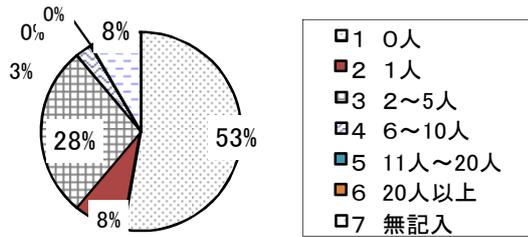
問 退院時カンファレンスに参加されなかった理由は何ですか？



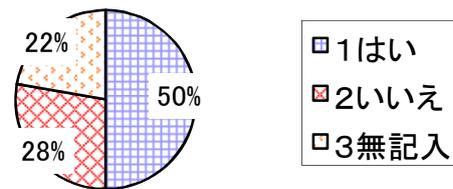
評価

ケアマネから相談される内容としては、「医療系サービスの導入について」が一番多く、次いで、「困難ケース」「病状不安定な方への対応」が多かった。緊急入院が必要な場合、ケアマネから相談はありましたかという質問について、「はい」と返答があったのは、34%にとどまった。また、「知らない間に入院しており、後日、ケアマネより報告があったことがある」と返答した方も、36%にとどまった。ご家族の同居の有無も分からない為、どの程度連絡の必要性があったのかは不明であるが、連携にはまだまだ課題が残されている。退院時のカンファレンスには、「参加したことがある」との回答は19%で、まだまだ少ないが、退院時カンファレンスに参加されなかった理由としては「カンファレンスの必要な対象者がいなかった」という回答が一番多くみられた。カンファレンスの連絡経路は、ケアマネ・MSWともに約39%ずつであった。

問 相談しやすい関係のできているケアマネジャーは何人いますか？



問 2~3年前に比べて、ケアマネとの関係は近くなったと思いますか？

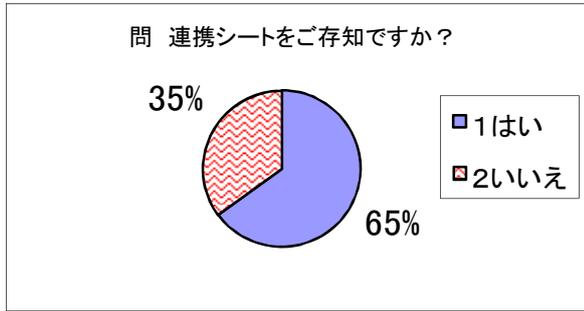


評価

相談しやすいケアマネジャーは何人いますかという質問に対して、「0」との回答が全体の半数以上を占めている。「2~5人いる」との回答も、約3割あったが、全体数からすると、まだまだ低いと言える。ケアマネの立場から相談しやすい主治医の人数を尋ねたところでは、5割以上いたことと比較すると、ケアマネと主治医の間での差がみられる。2~3年前に比べてケアマネとの関係は近くなったかという質問に対して、5割の方が「はい」と答えており、少しずつではあるが、確実に連携はとれるようになって来ていると言える。

3. MSWに対するアンケート結果

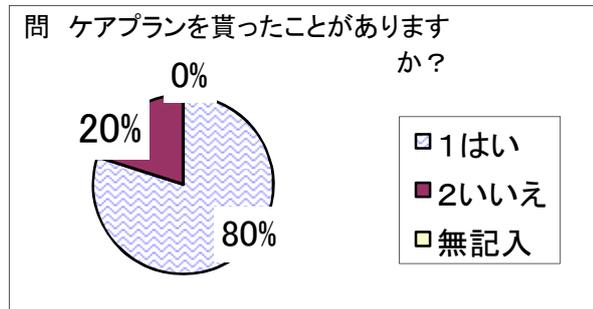
<連携シートについて>



連携シートの活用について

	件数
1 ケアマネジャーから貰った事がある	12
2 ケアマネジャーへの連絡の為に使用	1
3 医師への連絡の為に使用	0
4 歯科医師への連絡の為に使用	0
5 薬剤師への連絡の為に使用	0
6 貰った事も使用した事もない	0
7 無記入	1
計	14

<ケアプランについて>



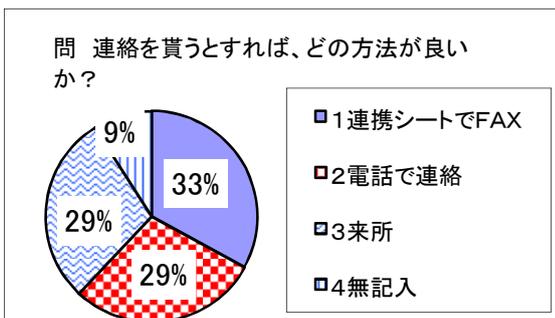
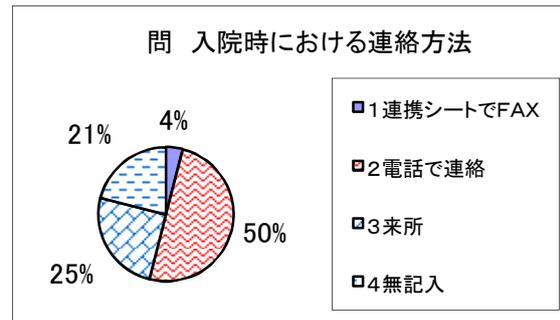
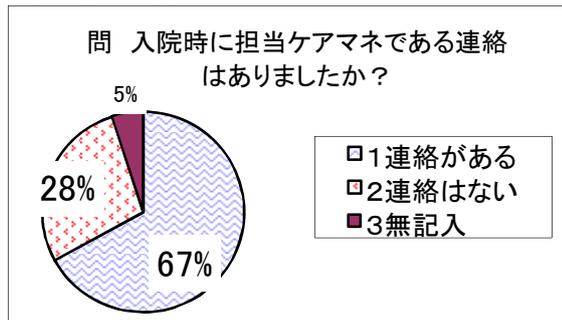
ケアマネからよく相談される事はどんな内容ですか

	件数	パーセント
1 医療系のサービス導入	10	53
2 対応困難ケース	9	47
3 認知症高齢者	7	37
4 病状不安定なケースの対応	11	58
5 急変時の対応	8	42
6 その他	4	21
7 無記入	0	0

評価

連携シートについては、65%のMSWが「知っている」と回答し、ケアマネジャーから連携シートを貰ったことがあると回答した方は全体の57%。「ケアプランを貰ったことがある」と回答した方は、8割と多い。ケアマネからよく相談される内容としては、「医療系サービス」「困難事例」「認知症高齢者」「病状不安定」「急変時の対応」など、医療に関する様々な相談があることが伺える。

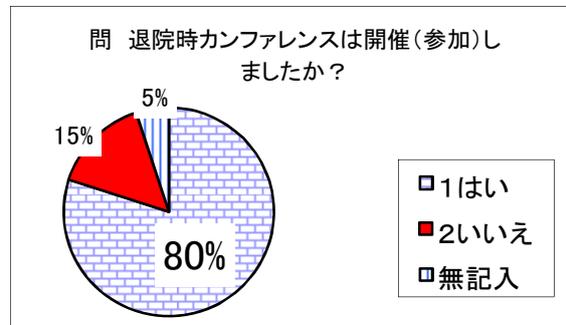
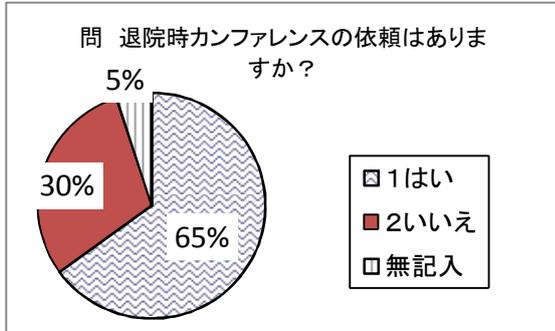
<入院時の連携について>



評価

入院時にケアマネから、担当ケアマネであることの連絡をもらえたとして7割弱のMSWが回答。連絡方法として、電話による連絡が50%、来所によるものが25%であった。
MSWとして、どのような方法で連絡を貰いたいかという質問に対しては、連携シート・電話・来所とほぼ同数であったが、記録として残すためには、もっと連携シートの活用が必要といえる。

<退院時の連携について>

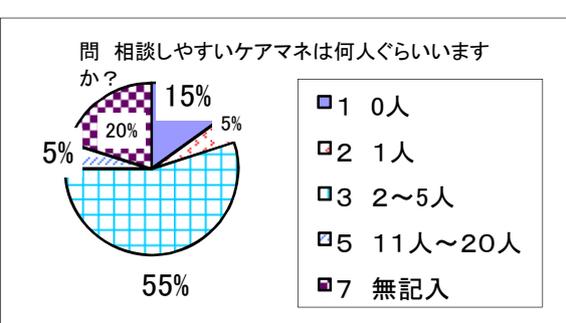
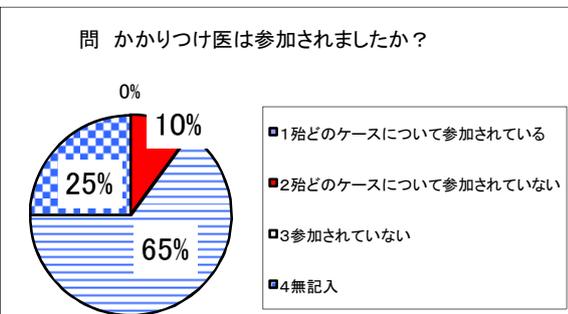
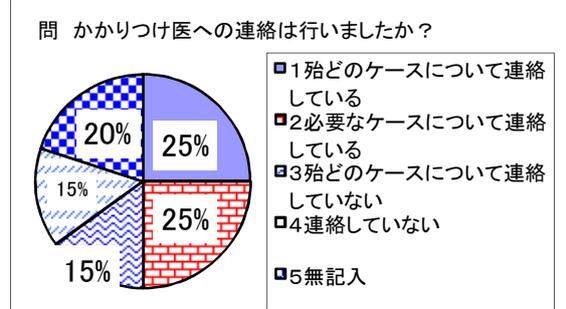
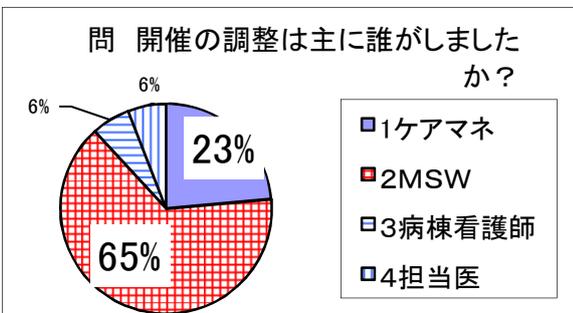


開催してどうでしたか

	％
1 本人や家族の協力や理解が得られた	25
2 病状把握ができ支援が行いやすくなった	30
3 関係者間の連携がスムーズとなった	50
4 日程調整が難しかった	35
5 必要性をなかなか理解してもらえなかった	5
6 その他	5
7 無記入	25

どんな事例の時に依頼がありましたか

独居で介護度が高い場合
困難ケース
医療ニーズが高くなった場合 (バルーンやインシュリンが必要になった時)
緊急時の対応、サービスの導入について等
退院先としていくつか候補がある時
四肢への障害が残る疾患(脳梗塞、頸部骨折など)
退院後の投薬処置について注意が必要な時



評価

退院時の連携として、「退院時カンファレンスの依頼はある」との回答が65%あり、MSWも参加したことがあるとの回答も80%。開催した結果、「関係者間の連携がスムーズになった」との回答が50%で一番多い。

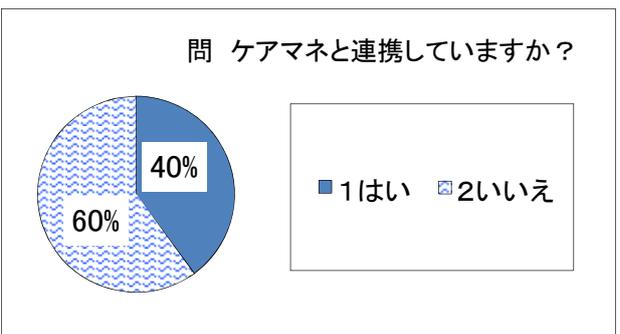
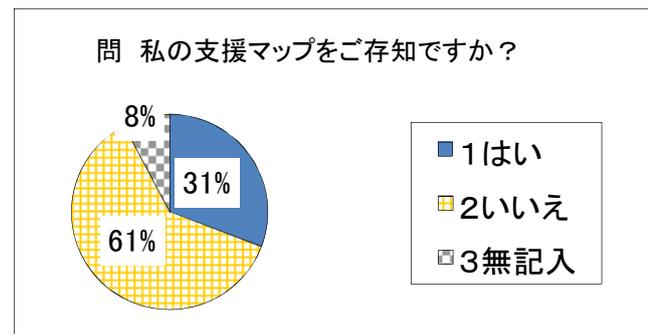
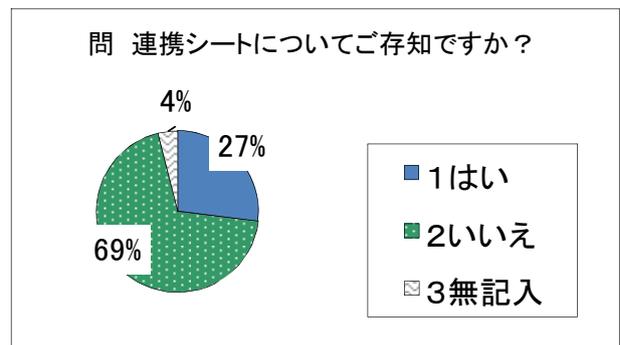
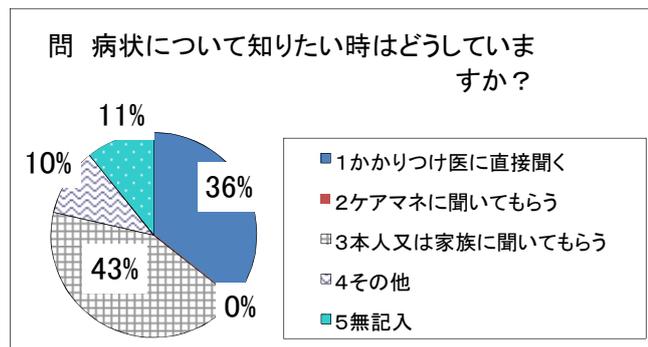
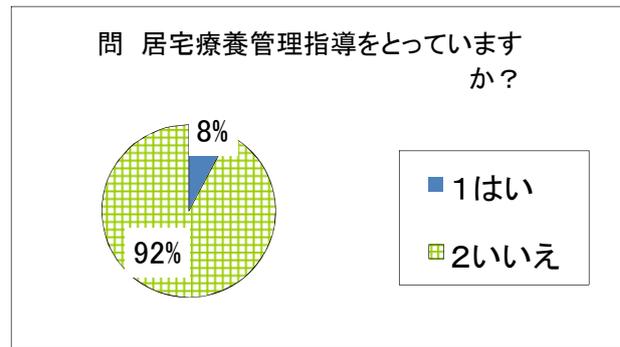
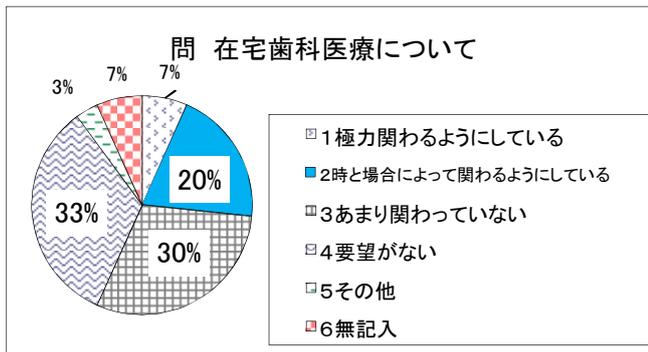
退院時カンファレンス開催の調整をした場合、主に調整したのは、ケアマネよりもMSWが中心になって行ったという回答が、上回る。

開催にあたり、かかりつけ医への連絡は、「ほとんどしている」「必要に応じてしている」との回答が合わせて50%にのぼり、ケアマネがかかりつけ医に対して連絡している割合よりも多い。

実際にカンファレンスにかかりつけ医が参加する割合は極めて少なく、なかなか参加が難しいという現状が伺える。

MSWからみて、「相談しやすいケアマネは何人ぐらいいますか？」という質問に対し、「2～5人」と回答した方が一番多く、55%。少なくとも、数人はいるという面では評価できるが、「6人以上」との回答は1人だけであった。市内の居宅介護支援事業所数が15件ほどあることを考慮すると、まだまだ連携を強化していく必要性が高いといえる。自由記述の意見にも、「ケアマネによつての差が大きい」などの意見も見られ、全体としての底上げが必要と思われる。

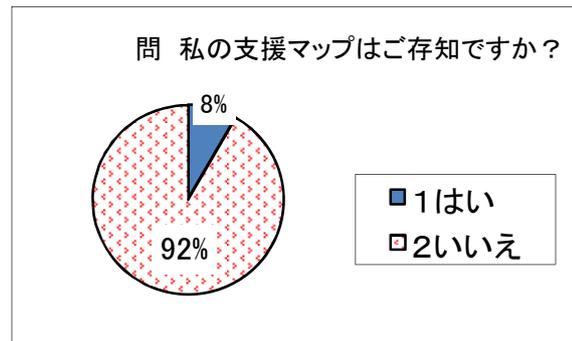
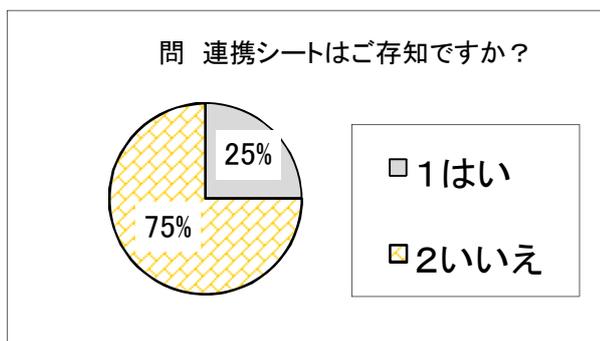
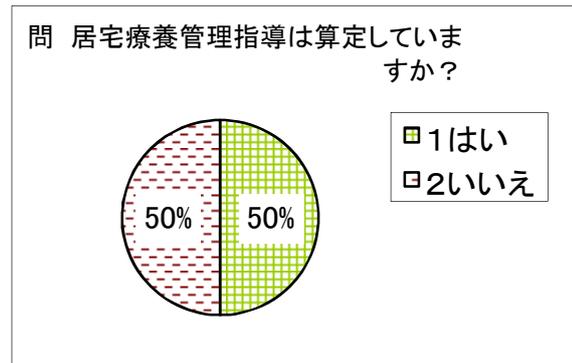
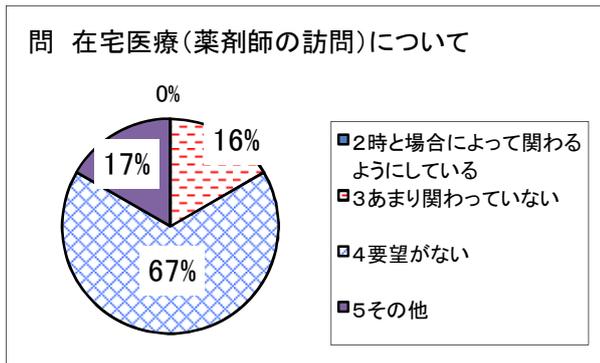
4. 歯科医師に対するアンケート結果



評価

在宅歯科医療について、「極力関わることにしている」「時と場合によって関わることにしている」との回答は合わせて3割弱。居宅療養管理指導も算定しているとの回答は1割弱である。病状について聞きたい時も、かかりつけ医に直接聞くとの回答が一番多く、ケアマネの関与は無いと言える。「連携シート」について「知らない」との回答が約7割、「私の支援マップ」についても「知らない」との回答が6割を占めている。連携シート、支援マップともに「知らない」との回答が多く、医師に比べて、ケアマネと歯科医師との連携は不足しているのが現状といえる。ケアマネとの連携も「無い」との回答が6割。現状では、在宅歯科医療・口腔ケアの必要性について、歯科医師に比べてケアマネの認識が低い。また、在宅歯科医療をしている藤井寺市内の医院を知らないとの声もあり、市外で訪問歯科を専門に活動している医院へ流れる傾向がある。ケアマネとの連携強化にあたり、まずはケアマネと歯科医師との顔の見える関係の構築が急務である。

5. 薬剤師に対するアンケート結果



評価

在宅医療(薬剤師訪問)については、「要望がない」が最も回答が多く、次に「あまり関わっていない」との回答が続く。薬剤師が訪問をしている場合、居宅療養管理指導については、半数が算定していると回答。

自由記述による回答において、「主治医との連携はあるが、ケアマネとの連携はない。」「ケアマネが誰か知らない」との回答が多くみられた。また、「今後、機会があれば関わっていきたい。」という前向きな記述も多数見られた。

在宅でがん末期の方への支援を行う際には、薬剤師の関わりが必要な場合も多く、今後、ケアマネとの連携の強化が必要と思われる。

自由記載一覧

○介護支援専門員

1	お互いに利用者を中心と考え、一緒に支援することで、連携が強くなっていくと思う。
2	医療的な注意点など、先生の方からも発信してほしい。(質問すれば返答はあるが・・・)
3	介護保険制度でどこまでのサービスが可能なのか、現状などを知ってほしい。「すぐにショートステイに入れてもらいなさい」と言われても空きがない現状や、「デイやショートで点滴してもらいなさい」、軽度者に対して「1日4回ぐらいヘルパーに来てもらったらいい」など、実際には無理なことを知ってもらいたい。
4	いけ！ネットが出来て何年か経過してきています。医師の方々も介護の分野を理解しようと日々がんばっておられます。私達ケアマネ自身も向上し、生活の質を上げる点で逆に医師に様々な意見を提案できるようになりたいです。
5	医療系サービス利用者のプラン変更時に、主治医の意見を求める必要があるが医師が制度的な部分を理解されていない時がある。医師が介護保険のことをもう少し理解して頂けると、話がしやすいのですが・・・
6	入院された利用者の方で、かかりつけ医に連絡はさせてもらったが、かかりつけの医師が独自で状態把握をされていたようだった。サービス導入も含め、かかりつけ医、入院先の主治医、他関係者とともにカンファを聞くべきだったと思うが、MSWとの連携がうまくとれなくて、もう少しMSWとの連携が必要と思った。ただ、ケアカンファの必要性について温度差があるように感じ(MSW、ケアマネ、医師の中で)難しいと思った。
7	医療面でアドバイスを受けたい時、どんな事でも相談出来るようになりたい。又、ご本人に病院の説明、気を付ける事等、分かりやすく教えてあげたい時、自分自身の知識が未熟の為、説明できない。病気について知識を勉強したい。

○医師

1	在宅訪問診療の依頼をケアマネジャーから受けることはほぼ皆無に近いです。患者家族より訪問診療、かかりつけ医の依頼を受けた際にすでに医療系サービスが導入されていることが多く、訪問診療に関しては追認することがほとんどです。訪問診療、かかりつけ医の依頼を受ける際に医療系サービスについての相談を受けることはありません。介護保険上の欠陥と考えます。
2	医師⇒ケアマネへの発信用連携シートがあれば便利

3	今回初めて支援マップを知りましたが、なかなか良いものだと思います。高齢の外来患者さんで特に独居の方などこうしたものを持つようお勧めしてみようと思います。
4	担当のケアマネさんが分かりにくいことも多いので、支援マップをもっと有効利用したいと思いました。
5	ケアマネの個々の資質によるもの。
6	①介護度の低い利用者は利用者（支援レベル）ではあまり連携がとれていない印象あり ②羽曳野・柏原市のように主治医意見書が郵送されているところは、ケアマネの方と顔をあわせる機会がない傾向あり。

OMSW

1	もっとケアマネに動いてもらいたいケースも、結局病院MSWが対応しているケースもあり、ケアマネには柔軟な対応を期待します。
2	担当ケアマネによって対応方法や範囲が違うので相談、依頼事に戸惑うことが多々ある。
3	退院可能となった患者が転院や施設入所ができない場合の行きつくところは在宅しかないのに、ケアマネが安易に「在宅は無理ですね」と本人・家族に話される場合が多々見られる。家族にそう伝える前にMSWから本人の状態等の情報を得るようにしていただきたい（家族等の同意を得て）。また、相談を受けたケアマネが在宅生活を支えられないと感じても、他のケアマネ（ケアプランセンター）なら支えていけるかもわからないので、「在宅は無理」という発言をする場合は、十分に検討したうえで言っていただきたい。退院時の連携も看護サマリーの提供のみを求めるのではなく、直接患者を見にきていただきたい。（一部のケアマネですが・・・）
4	要支援者へのサポートをもう少し確立してもらいたい
5	独居で身寄りがない患者さんが入院した場合、衣類や入院に必要な物を自宅へ取りに行っていたら助かります。また、カンファレンスの依頼をした場合、迅速に段取りをお願いしたいです。
6	すごく親身になって動いてくれるケアマネと全く動いてくれないケアマネの差が大きい。当院に療養型をメインにしているからかもしれないが、在宅への受入を拒否されるケアマネが多い。ただ、藤井寺市の「いけ！ネット」は他市と比べるとすごく連携が取れているように感じる。
7	独居の方の入院時、連絡先、家族関係、自宅での生活の様子が早く分かるため助かる。退院後のサービス利用の調整をして頂き、本人・家族も安心して在宅復帰が出来ること。

8	入院されてすぐ担当ケアマネより連絡のあるケースは稀です。必要時にこちらからご本人に担当者をうかがったり、探すケースがほとんどです。退院時サービス担当者会議をしたと連絡があっても、退院時に実際、開催されるケースは稀です。当院が主治医となっている患者（外来）のケアプランはいただいたことがないのですが、特に必要はないのでしょうか。
---	---

○歯科医師

1	少子高齢化社会になりますます介護必要者及び寝たきりの人が増えていますが、口腔ケアの重要性が一段と必要になり訪問歯科診療が必要と考えられており、より一層連携が大切であると考えております。
2	医療・介護の連携は重要で今後必要不可欠になっていくと思います。現状を調べ充実させていってほしい
3	連携は患者のことがよく理解できるのでよい方法だと思います。
4	最近、寝たきり在宅訪問歯科の依頼が減少している（藤井寺市では保健センターを通して歯科医師の医師が出勤する事になっている。）ケアマネやヘルパーさんからの訴えも必要と考える。訪問歯科への出勤の医師が少ない。又、出勤距離も自宅院の近くの方が良い。
5	連携シート、支援マップを活用できれば良いと思う。
6	より顔の見える関係に。

○薬剤師

1	ふだんからあまり関わりがないので、連携シート、支援マップなど知らなかった。もし要望があれば今後は関わっていきたいと思う。
2	問に関して原則ですが、一人薬剤師であるのと、当該地区医療品備蓄体制が全く不備な為、その対応に忙殺されているのが現状です。行政側も知ってか知らずか全く関与しませんので。
3	勉強したいと思います。
4	要望があれば積極的に参加します。
5	当市における在宅医療への関与は医師会>>歯科医師会・薬剤師会が現状です。もっと参画の機会を与えてください。

いけ！ネット

在宅生活を支える環境づくりのために、医療・介護の連携強化が求められています。連携を促進していく私たち現場の医療・介護従事者はどのようなことができているか、どのようなことが今後必要なのか膝を突き合わせ考えてみませんか？

また、いけ！ネットが、これまでに提案した「連携シート」などの活用進捗状況の報告やPRビデオの上映も行います。ぜひ御参加下さい。

日時

平成22年10月30日（土）
午後2時～午後5時30分

会場

藤井寺市立福祉会館
2階 講座室

* 駐車場に限りがあります。



内容

(参加費：無料)

テーマ：「藤井寺市の医療・福祉は
チームアプローチで」

★活動報告★グループディスカッション

★懇親会 *簡易ですが、茶菓子をご用意いたします。

対象者

- ・ 藤井寺市医師会会員 ・ 藤井寺市薬剤師会会員
- ・ 藤井寺市歯科医師会会員
- ・ 藤井寺市羽曳野市の医療ソーシャルワーカー
- ・ 藤井寺市介護保険事業者連絡協議会会員の居宅介護支援事業所
- ・ 藤井寺市羽曳野市の訪問看護に従事している者 など

主催

医療・ケアマネネットワーク連絡会
(事務局 藤井寺市地域包括支援センター)

後援 (予定)

藤井寺市医師会 藤井寺市薬剤師会
藤井寺市歯科医師会 藤井寺市
藤井寺市介護保険事業者連絡協議会
大阪府藤井寺保健所

申し込み・問い合わせ先

各職能団体の事務局

TEL 072-●●●-●●●●

FAX 072-●●●-●●●●

「藤井寺市の医療・介護は
チームアプローチで」

■いけ！ネットメンバー

[平成22年10月30日現在]

	役職	氏名	職種
1	会長	数尾 展	医師
2		園部 鳴海	医師
3		白川 親	医師
4		時吉 浩司	医師
5		兵埜 芳夫	歯科医師
6	副会長	北島 信彦	歯科医師
7		古金谷 信行	歯科医師
8		福永 敬三	薬剤師
9		武村 稔	薬剤師
10		山本 宏一	薬剤師
11		市川 幸世	MSW
12		竹内 啓二	MSW
13		吉田 久美	看護師
14		中村 浩美	看護師
15		尾古貴 智実	看護師
16	副会長	木島 真也	介護支援専門員
17		森 弘美	介護支援専門員
18		河相 淳	介護支援専門員
19		黒崎 喜之	介護支援専門員
20		杉本 雅子	介護支援専門員
21		岩木 育子	介護支援専門員
22		高山 暁美	行政（府）
23		清水 哲夫	行政（市）
24	事務局	前原 由幸	社会福祉士
25		川村 恵子	主任介護支援専門員
26		東瀬戸 久子	主任介護支援専門員
27		田中 光子	介護支援専門員

～平成 22 年 10 月 30 日実施～

いけ！ネット交流会 報告資料

いけ！ネット事務局：藤井寺市地域包括支援センター

大阪府藤井寺市北岡 1 丁目 2 番 8 号 市立福社会館内

電話：072-937-2641 FAX：072-937-2643

2011 年 1 月発行